

# 成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

堺シティオペラ一般社団法人

<p><b>所在地</b></p>	<p>大阪府堺市</p>	<p><b>設立年</b></p>	<p>1979年「堺市民オペラ」として発足 2009年「堺シティオペラ一般社団法人」へ移行</p>
<p><b>運営主体</b></p>	<p>堺シティオペラ一般社団法人</p>		
<p><b>事業目標</b></p>	<p>「オペラ」と言う総合芸術に携わる堺シティオペラが、地域の教育委員会や学校と連携し、様々な分野で活躍するアーティストや指導者をコーディネートし地域の中学生・小学生に学校の部活動に代わり継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を提供する。オペラだけに特化するのではなく、日本の伝統文化、演劇、ミュージカル、ダンス、舞台の裏方など、舞台芸術に関する様々なことに触れる機会を作り、音楽や舞台芸術を身近に感じてもらい、今後の子どものための将来の芸術文化の普及や発展に寄与する。</p>		
<p><b>きっかけ</b></p>	<p>堺シティオペラが、生徒数の減少や教員の働き方改革等の課題に対処し地域の教育現場に貢献と同時に家庭の経済状況に関わらず子どもたちが多様な文化・芸術体験を積むことができるようサポートしたいという思いでジュニアオペラという名称で本活動を立ち上げた。 部活動による教員負担軽減や少子化等への対応を推進する文化庁事業の一つの地域文化倶楽部創設支援事業で本活動を「地域文化倶楽部」として2020年に承認された。</p>		
<p><b>団体・組織等の連携</b></p>			
<p><b>活動場所</b></p>	<p>堺シティオペラ エタニティ エイト</p>		
<p><b>活動概要</b></p>	<p>地域文化倶楽部・ジュニアオペラは、地域の団体である堺シティオペラが主催し文化庁の助成を受け2021年に立ち上げられた事業である。 大阪府内の全小・中学生を対象に部員を募集し、音楽、演劇、ミュージカルなどの表現分野と伝統芸能(狂言や日本舞踊)、舞台芸術や作詞など制作分野を融合した総合文化芸術部として活動している。大阪府内の小・中学生が部員となり、週1回1時間～3時間程度堺シティオペラの施設であるエタニティ エイトで集まり、活動している。講師は、オペラや舞台芸術の様々な分野で活躍するアーティストが、毎回違ったテーマを題材にしてを指導を務める。</p>		

## ○本事業による成果

- ・参加児童は技術の向上だけではなく、学校や・年齢の幅が広く垣根なく友人ができるなどの副次的な効果が得られている。
- ・小学生の参加が多いので、中学生になってからも舞台芸術に関わる子どもが増えていくと考えられる。
- ・今年度実施したことにより、学校の校長へ今後どのようなことが出来るかという参考例としてプレゼンテーションが出来事業を認知いただくことができた。また学校長と意見交換をし、教育現場ではどのようなことが求められているか等を知ることが出来た。今後の課題として地域の学校の先生方の認知していただき、部活動顧問をしている教員の負担軽減につながる可能性がある。
- ・伝統文化の指導を取り入れることにより子どもたちに普段学校では習えない伝統文化を理解する機会を与えた。
- ・指導者として意欲を持たれている先生方にとっては、部活動の内容や質を向上する取組としてよい受け皿になり、優れた人材を青少年育成の現場に招くことができた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・学校では習えない現役のアーティストを指導者として選定している。  
専門的な知識をもつ指導者から指導を受けることで、生徒の技術習得や意欲向上、保護者の理解につながっている。
- ・学校の都合などで毎回参加しなくても遅れをとらないよう継続的ではない講座(毎回指導者が代わる)を開催。
- ・地域のイベント(公演)ではオーケストラや現役の歌手と一緒に公演に参加できる機会を提供。
- ・メインの講師以外にも指導補佐が付き添い低学年の児童の練習をサポートするといった工夫も行っている。
- ・コロナ禍の中では、密をさけるためにリモートでのレッスンも開催。
- ・年度末には、1年間の成果を発表するための発表会も開催。

## ○運営上の工夫

- ・子どもたちが様々な経験ができるような様々な分野で活躍する指導者を選定  
(当初の予算からの減額で 厳しい状況であったが、スケジュールや謝礼など、当団体で指導経験のある講師やアーティストの協力を得た。)
- ・活動時間は学校終わりの時間にあわせて参加しやすい時間に調整
- ・生徒たちの募集は当団体のホームページやSNSで告知と、地域の音楽教員にチラシの配布。
- ・保護者との連絡調整については、当団体の事務局員が必ず講座が開催される前日にメールで連絡。  
指導者との連絡も頻回に行い、参加している児童の状況や他の講座の内容に関しての情報提供も行う。
- ・指導者の参考になるように、他講座の動画データを指導者に配信
- ・地域の公演に参加するなど、他団体とのイベントにも積極的に子どもを参加させている。
- ・活動支援・事業運営のためにリモートレッスンや動画配信などでICTを活用。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

今後は教育委員会と複数回に渡って情報共有の打ち合わせをし、令和3年度の活動内容等を、中学校・小学校の校長会でプレゼンテーションを行う。また、学校の指導者が地域文化倶楽部の活動を実際に体験できる環境を整え(イベント実施、リモートやアーカイブ配信の共有)、幅広く学校や教師にこの活動を周知してもらい、生徒に推薦したくなるような仕掛けを作る。離れた学校の音楽教師が地域文化倶楽部を通じてつながることで情報共有ができるようになり、今後の文化芸術関連の学校での指導の発展や向上につなげ、将来の芸術文化の普及と発展に寄与する。

地域の学校や教育委員会などの行政機関などと連携をして、生徒や各家庭への広報協力を得るように働きかける。また、地元の企業や事業所に広報協力などを依頼しサポートをしてもらうことにより、将来的に子ども達の文化芸術活動を行政機関や地元の企業・事業所がサポートするシステムを構築することを目標としている。参加費は各家庭の負担を最小限にするために無料にする。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

### 【子どもたちには】

「オペラ」と言う総合芸術に携わる堺シティオペラが、地域の教育委員会や中学校と連携し、様々な分野で活躍するアーティストや指導者をコーディネートし地域の中学生・小学生に学校の部活動に代わり継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を提供する。オペラだけに特化するのではなく、日本の伝統文化、演劇、ミュージカル、ダンス、舞台の裏方など、舞台芸術に関する様々なことに触れる機会を作り、音楽や舞台芸術を身近に感じてもらい、今後の子どもたちの将来の芸術文化の普及や発展に寄与する。

- ・学校ではできないような活動をしてもらい、将来の選択しを広げる
- ・専門性の高い指導を受けられる機会を提供する
- ・参加するしないを自由に選択できるようなシステムにする
- ・様々な価値観を持つ人や、学校や年齢の幅が広く垣根なく交流でき、成長できる環境を提供

### 【教職員、学校には】

地域の中学校では音楽を指導する教師が1名しかいないことも多く、離れた学校の音楽教師が地域文化倶楽部により繋がり今後の学校での指導の向上になるようなイベントを企画し、学校関係者も参加できるように学校や教育委員会と連携を図る。指導者を巻き込んだ活動にし、生徒だけでなく教師も一緒に学べる機会を作る。地域の学校や教育委員会などの行政機関などと連携をして、生徒や各家庭への広報協力を得るように働きかける。また、地元の企業や事業所に広報協力などを依頼しサポートをもらうことにより、将来的に子ども達の文化芸術活動を行政機関や地元の企業・事業所がサポートするシステムを構築することを目標としている。

- ・部活動指導の負担が減る。授業準備など本来業務により時間とエネルギーを割けるようになる。
- ・地域との関係性が強まる。部活動以外でも連携しやすくなる。

### 【地域にとって】

- ・地域のスポーツや文化活動の活性化
- ・地域のなかでの連帯、関係性の向上
- ・地域の企業等のビジネス活性化

参加者 (予定人数)	大阪府内の小・中学生 14人
募集方法	チラシによる募集。先生に対してチラシ配布の協力依頼。SNSでの告知。
指導者	外部人材を活用 ・歌唱指導(10名) ・ピアニスト(3名) ・狂言・日本舞踊指導(2名) ・作詞(1名) ・指揮者(1名)
移動手段	保護者による送迎
活動費用	講師謝礼／5,100円(1時間) 講師補佐／4,000円(1.5時間) ピアニスト謝礼／4,400円(1時間) コーディネーター(事務局運営)／1,100円(1時間)
スケジュール	9月／オペラ歌手にならう発声法・日本の伝統芸術の所作 10月／劇音楽のなかの歌詞・日本舞踊のトライアル・オペラ歌手に習う歌唱法 11月／トゥーランドット合唱練習・オペラ歌手に習う歌唱法・オペラ公演が出来上がるまで 12月／トゥーランドット合唱練習と本番・指揮者による指揮法 1月／表現について・発表会練習 2月／発表会練習 3月／発表会練習と本番
保険加入等	無(担当者の間違いで加入できておりませんでした。次年度は加入いたします。)

## 【活動の様子（写真添付）】

狂言師 茂山千三郎による所作指導  
『狂言の様式美について』



- 腰の落とし方・目の動かし方・体の向け方などの和物所作
- 扇の扱い持ち方や広げ方／座り方・立ち方・歩き方
- 子ども狂言「七つになる子」の一節を歌い舞ってみる

オペラ歌手・沖縄県立大学教授 片桐仁美先生による  
『オペラ歌手に習う歌唱法』



- 発声について シャベる声と歌う声の違い／歌う声の出し方
- ドイツ民謡 プラムスの「砂の精」Sandmannchenを使用し、ドイツ語で歌ってみました。

『劇音楽のなかの歌詞 オペラ、ミュージカルから  
アニメソングまで』 松井洋平先生(アニメソング作詞家)



- 講義 オペラって何？／オペラとミュージカルの違い  
有名なアニメソングやオペラ ヘンゼルとグレーテルの歌詞の説明  
ラップについて(脚韻・頭韻・押韻について)
- 実践 松井先生が作ったメロディーに合わせて、みんなで作詞

ソプラノ歌手西田真由子先生と  
一緒に歌う 『秋の童謡&唱歌』



- 基本の立ち方／呼吸の仕方
- 身体づくりを考えて歌ってみよう
- 童謡「紅葉」「ちいさい秋みつけた」「村祭」  
「小さい木の実」を使用し歌唱練習しました。

『オペラ歌手(アルト)に習う歌唱法』  
糺谷栄里子先生



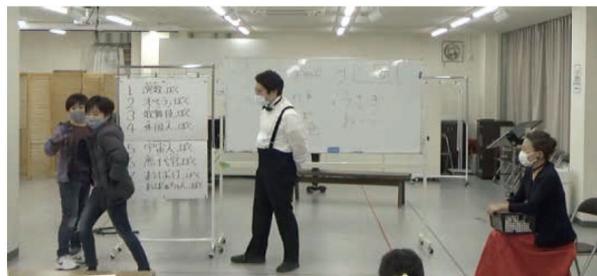
サウンドオブミュージックのDO-RE-MI

京舞篠塚流 篠塚瑞桜先生による  
『日本舞踊と体験(観る、舞う、知る)のクラス』



- 日本舞踊の体験
- 手ぬぐいを持って1曲、扇子を持って1曲  
合計2曲踊りました。

『定期公演出演 オペラ歌手二人による講座』  
西田真由子先生・中川正崇先生



- 指導者の実演 (オペラ「愛の妙薬」「こうもり」)
- オペラってどうやってできたか?  
・オペラとは音楽と言葉で進めている劇  
・言葉ってどんな風にできたのか?  
・音・言葉の表現に関して
- みんなで日本語を使って表現してみよう
- 表現する前に想像し、童謡「待ちぼうけ」をみんなで歌ってみよう

『～オペラ指揮 ってどんな人～』  
柴愛先生



- 指揮 について  
・指揮者って何をする人  
・オペラ指揮 はどこにいる
- 魔笛を振ってみよう  
・曲を知る  
・歌ってみる  
・みんなで曲に合わせて振ってみる
- 発表会  
・「登場」「お辞儀」の説明  
・一人ずつ指揮者と同じ経路で発表会を行う
- 指揮棒と蝶ネクタイで自由撮影会

発表会の動画URL <https://youtu.be/NP5zsggcuk>